

# 令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月21日

基本施策	A1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	歴史文化遺産が	市民や事業者の理解のもとに、貴重な財産として、適切に保存・活用され、伝えられている。	
基本施策主管課名	文化財課	所属長名	大賀 史郎
関係課名	長崎学研究所・出島復元整備室・世界遺産推進室・被爆継承課		

## 基本施策の評価

Bc 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

### 判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
- ・個別施策における12の成果指標のうち、100%以上の目標達成率が5つと半数以下で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

### 【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1)市が所有する文化財の保存整備、また、民間が所有する文化財の保存整備に対する助成等を行ったことにより、指定等文化財の適切な保存・活用が図られた。
- (2)「ながさき歴史の学校」において、「長崎学」「文化財」「近代化遺産」等をテーマにした7コースの講座、現場見学会、及び特別講座を実施したことにより、多くの市民が長崎の歴史・文化について学んだ。
- (3)出島表門橋架橋工事現場から検出された旧出島橋の石材について、その価値を検証するとともに、今後の保存活用についての検討を行ったことにより、旧出島橋を入場者への魅力のひとつとできるような活用の検討を行うことができた。
- (4)「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(以下「潜伏キリシタン関連遺産」という。)について、バーレーンで開催された第42回世界遺産委員会において世界遺産に登録されるとともに、登録記念事業としてセレモニー及び講演会を開催したことにより、各構成資産とその歴史の顕著で普遍的な価値を世界中に発信することができた。

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
文化財の指定・登録等 件数[累計]	290件 (26年度)	↑ 目標値	294件	296件	298件	300件	302件
		実績値	286件	288件	289件		
		達成率	97.3%	97.3%	97.0%		
主要な歴史文化施設※ 1を訪れたことがある市民の割合	59.1% (26年度)	↑ 目標値	60.1%	60.6%	61.1%	61.6%	62.1%
		実績値	67.8%	63.9%	64.9%		
		達成率	112.8%	105.4%	106.2%		

※1 計7施設:歴史民俗資料館、外海歴史民俗資料館、シーボルト記念館、サント・ドミンゴ教会跡資料館、歴史文化博物館(企画展を除く)、高島石炭資料館、軍艦島資料館(野母崎地区)

## 今後の取組方針

- (1)文化財の適切な保存・活用・継承を図るため、必要な保存修理・整備を着実に実施する。
- (2)「ながさき歴史の学校」における講座・講座内容の充実に努めるとともに、他団体と協力して周知を図り、長崎の歴史文化を多くの人に学んでもらう。
- (3)出島史跡整備審議会の旧出島橋保存活用小委員会等において、さらに調査、検討を進め、出島の大きな魅力のひとつとなるような保存活用を目指す。
- (4)世界遺産として適切に資産を保存管理し価値を後世に伝えるため、保全のための調査・整備を行うとともに、適切な周知啓発や受入れ態勢の充実に努める。

## 二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bc」については、所管評価のとおり。
- 自主財源の確保のため、出島やグラバー園の料金改定について検討が必要ではないか。

## 令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	A1-1 文化財を市民の誇りとして保存・継承し、有効活用を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	文化財が	適切な技法で保存継承され、広く公開・活用が図られている。	
個別施策主管課名	文化財課	所属長名	大賀 史郎

### 平成30年度 of 取組概要

①文化財の保存・継承に関する計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度に引き続き「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」を3回開催し、平成28年度に国指定史跡となった長崎原爆遺跡の保存、活用及び整備等に関する審議を行い、保存活用計画を策定した。</li> </ul>
②文化財の保存整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が所有する国指定重要文化財2か所(旧長崎英国領事館、旧グラバー住宅)について保存修理を実施した。</li> <li>・市が所有する国指定史跡1か所(高島北溪井坑跡)について保存整備を実施した。</li> <li>・市指定史跡である長崎(小島)養生所について、展示室整備に係る実施設計を行った。</li> <li>・民間が所有する国宝(1)、指定文化財(国1、県1、市4)において、所有者が実施する保存整備事業に対し補助を行った。</li> <li>・伝統的建造物群保存地区内の市が所有する伝統的建造物1か所(旧ウオーカー住宅)の保存整備を行うとともに、民間が所有する伝統的建造物2か所について所有者が実施する保存整備事業に対し補助を行った。</li> <li>・開発事業に伴う遺跡の有無や確認のための調査及び記録保存のための発掘調査を行うなど、埋蔵文化財の保護を図った。</li> <li>・指定文化財等(国2、市1、その他1)について、3D記録調査を実施した。</li> </ul>
③文化財の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山手地区の東山手甲十三番館について、市民団体との協働による管理運営を実施した。</li> <li>・市指定史跡である心田庵の一般公開(春・秋)を実施し、一般公開以外の期間には、市民への貸出を行った。</li> </ul>
④伝統芸能の保存継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎伝統芸能保存協議会による郷土芸能大会開催に向けて準備を行ったが、大会は台風接近により中止した。</li> </ul>

### 成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
市内の文化財の1年当たりの保存整備件数	7件 (26年度)	↑ 目標値	10	10	10	10	10
		実績値	12	9	12		
		達成率	120.0%	90.0%	120.0%		
指定・登録されている有料文化施設※1への入場者数	43,709人 (26年度)	↑ 目標値	45,500	46,400	47,300	48,200	49,200
		実績値	42,702	42,056	50,276		
		達成率	93.9%	90.6%	106.3%		

※1 計7施設:須加五々道美術館、旧香港上海銀行長崎支店記念館、ド・ロ神父記念館、中の茶屋、心田庵、べっ甲工芸館、古写真埋蔵資料館

## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①文化財の保存・継承に関する計画 ・国指定史跡長崎原爆遺跡の保存、活用及び整備等に関し、「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」での審議において、専門的な指導・助言を受けながら保存活用計画を策定した。	「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」での審議を経て、国指定史跡長崎原爆遺跡を適切に保護していくための保存活用計画を策定できたことで、次のステップである整備基本計画の策定に移行することが可能となった。
②文化財の保存整備 ・市が所有する文化財の保存整備を実施するとともに、民間が所有する文化財の保存整備に対し助成等を行った。 ・3D記録調査により、文化財の精細なデータを作成・保存することができた。	・指定等文化財を今後活用し、継承していくための適切な整備が図られた。 ・3D記録調査により作成された、文化財の精細なデータを活用することで今後の適切な整備及び活用につながる。
③文化財の活用 ・心田庵は一般公開を実施したことで、入場者が8,126人(春:19日間で1,572人、秋:20日間で6,554人)に上った。また、貸出についても、年間89件、1,288人の利用があった。	一般公開及び貸出により、年間を通して施設を利用することで、文化財の有効活用が図られ、市民に広く周知することができた。
④伝統芸能の保存継承 ・郷土芸能大会に向けた練習や現地指導等を通じ、郷土芸能の保存継承が図られた。	将来にわたり郷土芸能を保存継承していくための体制整備が図られた。

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①文化財の保存・継承に関する計画 ・保存のための整備は、整備基本計画の策定等が完了しなければ実施できないことから、遺構の中には並行して応急的な対応を行っているものもある。	遺構の本格補修を行うためには、整備基本計画の策定はもとより基本設計、実施設計に時間を要するため。
②文化財の保存整備 ・市が所有する文化財建造物において、早期に保存修理を行うべき物件が複数あるが、全てに着手できない状況にある。	文化財建造物の保存修理には、相応の財源及び期間が必要であるため。
③文化財の活用 ・市が所有する有料文化施設は、前年に比べ入館者が全体的には増加しているものの、個別に見ると減少している施設がある。	各施設の魅力が効果的に発信できていないことが一因と考えられる。
④伝統芸能の保存継承 ・郷土芸能活動において、後継者が不足し、伝承を図ることが困難な状況にある。	地域行事に参加できる子どもの数が少なくなっている。

## 今後の取組方針

- ①文化財の保存・継承に関する計画
  - ・国指定史跡長崎原爆遺跡保存活用計画を基に、引き続き「国指定史跡長崎原爆遺跡保存・整備委員会」の指導・助言を得ながら整備基本計画を策定する。
- ②文化財の保存整備
  - ・歴史文化基本構想に基づく文化財の保存・活用・継承を図るために計画的に保存修理・整備を実施する。
  - ・文化財の3D調査を計画的に実施し、精細なデータの作成・保存を図るとともに、保存修理・整備に活用する。
- ③文化財の活用
  - ・市が所有する史跡について、適切な保存管理を行うとともに、広く公開活用を図っていく。
- ④伝統芸能の保存継承
  - ・第44回長崎郷土芸能大会を開催し、郷土芸能の重要性を発信することで参加者の増加や後継者育成を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 【補助】文化財保存整備事業費補助金 伝統的建造物群保存地区</p> <p>【文化財課】</p> <p>(事業目的) 国選定重要伝統的建造物群保存地区の東 山手・南山手伝統的建造物群保存地区におけ る建造物等を保存整備し、後世に継承する。</p> <p>(事業概要) 伝統的建造物群保存地区保存条例第11条 の規定により、民間が所有する伝統的建造物 及び環境物件の修理・復旧経費の一部を補助 する。</p> <p>【補助率】 ・伝統的建造物の修理:総事業費の2/3 ・環境物件の復旧:総事業費の1/2 ※補助金の財源内訳:国5/10、県2/10以 内、市3/10以内</p>	実施年度	継続	
		成果指標	整備が必要とされる物件の箇所数	
		目標値	1 箇所	2 箇所
		実績値	1 箇所	2 箇所
		達成率	100.0 %	100.0 %
		決算(見込)額	312,180,000 円	372,746,000 円
		成果指標及 び目標値の 説明	伝統的建造物群保存地区(伝建 地区)内における建造物等の保存 のため、整備が必要とされる物件 の箇所数を成果指標とし、平成29 年度に整備予定であった物件1箇 所を目標値とした。	伝統的建造物群保存地区(伝建 地区)内における建造物等の保存 のため、整備が必要とされる物件 の箇所数を成果指標とし、平成30 年度に整備予定であった物件2箇 所を目標値とした。
取組実績 、成果・課題 等	<p>(取組実績) 伝統的建造物の保存修理 ・活水学院本館 312,180千円</p> <p>(成果・課題等) 伝建地区内の伝統的建造物の 保存修理・整備が進み、後世への 継承が図られた。</p>	<p>(取組実績) 伝統的建造物の保存修理 ・活水学院本館 346,891千円 ・マリア園 25,855千円</p> <p>(成果・課題等) 伝建地区内の伝統的建造物の 保存修理・整備が進み、後世への 継承が図られた。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
2	<p>(事業名) 【単独】文化財保存整備事業費補助金 各種文化財</p> <p>【文化財課】</p> <p>(事業目的) 指定文化財の保存修理等を所有者において実施する補助対象事業に対し、文化財保護条例第8条の規定により、修理費用の一部を補助する。</p> <p>(事業概要) 指定文化財の保存修理・整備事業に対して、補助金を交付する。</p> <p>【補助率】 (国指定文化財)国5/10以内、県1/6以内、市1.25/10以内 (県指定文化財)県5/10以内、市2.5/10以内 (市指定文化財)市5/10以内</p>	実施年度	継続	
		成果指標	整備が必要とされる物件の箇所数	
		目標値	9 箇所	7 箇所
		実績値	7 箇所	7 箇所
		達成率	77.8 %	100.0 %
		決算(見込)額	33,529,000 円	35,496,000 円
		成果指標及び目標値の説明	市内における文化財の保存のため、保存修理・整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、平成29年度に整備予定であった物件9箇所を目標値とした。	市内における文化財の保存のため、保存修理・整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、平成30年度に整備予定であった物件7箇所を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 補助金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国宝大浦天主堂(防災) 交付額 1,131千円</li> <li>・国宝大浦天主堂(美装化) 交付額 4,198千円</li> <li>・国指定史跡小菅修船場 交付額 448千円</li> <li>・市有形文化財福建会館 交付額 24,930千円</li> <li>・市指定史跡深堀鍋島家墓地 交付額 1,508千円</li> <li>・市指定史跡阿蘭陀通詞中山家墓地 交付額 658千円</li> <li>・市指定天然記念物滑石大神宮社叢 交付額 656千円</li> </ul> <p>(成果・課題等) 文化財の保存修理・整備が完了したことにより、文化財の保護が図られた。</p>	<p>(取組実績) 補助金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国宝大浦天主堂 交付額 3,331千円</li> <li>・国指定史跡小菅修船場跡 交付額 862千円</li> <li>・県指定有形文化財皓臺寺山門・仁王門・大仏殿 交付額 2,775千円</li> <li>・市指定有形文化財福建会館 交付額 25,505千円</li> <li>・市指定史跡深堀鍋島家墓地 交付額 1,775千円</li> <li>・市指定天然記念物滑石大神宮社叢 交付額 941千円</li> <li>・市指定史跡唐通詞林・官梅家墓地 交付額 307千円</li> </ul> <p>(成果・課題等) 文化財の保存修理・整備が完了したことにより、文化財の保護が図られた。</p>		

## 令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	A1-2 歴史・文化遺産に対する市民意識を高め、国内外に向けて発信します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	長崎の歴史文化遺産が	市民に関心を持たれ、学ばれ、国内外に発信されている。	
個別施策主管課名	文化財課	所属長名	大賀 史郎

### 平成30年度 of 取組概要

- ①歴史文化施設での取組み
- ・シーボルト記念館では、企画展を3回、特別展を1回行うとともに、シーボルト学習会を開催した。歴史民俗資料館では、企画展を5回行い、小・中学校に加え老人福祉施設等へも館の周知を図った。
- ②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み
- ・誰もが気軽に長崎の歴史を学ぶことができる「ながさき歴史の学校」において、「長崎学」「文化財」「近代化遺産」等をテーマにした7コースの講座を実施した。また、保存修理中の国指定重要文化財旧長崎英国領事館において、それぞれ地元自治会及び一般市民を対象に現場見学会を行った。さらに、明治150年を記念し、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である、国指定史跡小菅修船場跡をテーマとした特別講座を行った。
  - ・文化財サポーター活動として、伝統的建造物群保存地区旧居留地石標柱調査や、文化財めぐり「重要文化財旧長崎英国領事館修理現場見学会」の運営補助などを行った。
  - ・歴史文化博物館では、長崎学や古文書についての定例講座のほか、れきぶんこどもクラブなどの各年代別プログラム等、歴史文化講座を開催した。
  - ・長崎学研究所を事務局とした長崎学ネットワーク会議において、大学・博物館・郷土史研究団体などとネットワークを構築し、会議の構成団体を核とした公開学習会を開催した。
  - ・長崎学研究所による研究成果を発信するために、紀要『長崎学』第3号を刊行した。
  - ・長崎学の研究成果を報告するための「長崎学研究発表会」及び将来の長崎学研究の人材育成のため、市内の小学校を対象に「長崎学児童研究コンクール」を開催した。
  - ・歴史・文化施設の展示に係る表示板や解説板、リーフレット等の多言語化(日本語・英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語)を行った。

### 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
歴史文化博物館、歴史民俗資料館等の常設・企画展の入場者数	233,258人 (26年度)	↑ 目標値	266,000	266,600	268,000	269,000	270,000
		実績値	195,128	352,443	207,721		
		達成率	73.4%	132.2%	77.5%		
【補助代替指標】 歴史文化博物館、歴史民俗資料館等の常設展の入場者数	128,569人 (26年度)	↑ 目標値	166,000	166,600	168,000	169,000	170,000
		実績値	118,491	123,427	134,287		
		達成率	71.4%	74.1%	79.9%		
歴史文化講座参加人数	3,102人 (26年度)	↑ 目標値	3,262	3,342	3,422	3,502	3,582
		実績値	3,993	3,557	4,132		
		達成率	122.4%	106.4%	120.7%		

※歴史文化博物館の企画展は、施策の目的と合致しない内容の催しも含まれるため、補助代替指標として常設展の入場者数を記載した。



## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①歴史文化施設での取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史民俗資料館において、小・中学校は38校が社会科見学で訪れ、老人福祉施設等は5施設13回の利用があった。</li> </ul>	<p>多様な世代・団体に利用されるようになり、市民の歴史文化に対する関心を高めるきっかけ作りとなっている。</p>
<p>②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財サポーター活動を13回実施し、延べ100人が参加した。</li> <li>・歴史文化博物館での歴史文化講座には、延べ2,170人、ながさき歴史の学校には、延べ1,473人が参加した。特に、ながさき歴史の学校では特別講座を実施したことにより、参加者が前年度より大幅に増加した。</li> <li>・平成28年度より開設している長崎学研究所において、公開学習会(開催回数5回、参加者数476人)や研究発表会の開催、紀要の刊行を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財サポーター活動を通じ、文化財の保護に関する市民協働意識の高揚が図られた。</li> <li>・歴史文化博物館での歴史文化講座及びながさき歴史の学校に多くの市民が参加したことにより、長崎の歴史・文化に対する理解度向上が図られた。</li> <li>・長崎学研究所における公開学習会や研究発表会の開催、紀要の刊行により、市民への長崎学の普及・啓発が図られた。</li> </ul>

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①歴史文化施設での取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者が年々減少している施設がある。</li> </ul>	<p>効果的な情報発信ができていないこと、また、常設展示の見直しが十分でないことなどが考えられる。</p>
<p>②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財サポーターを維持するための人材の不足が見られる。</li> <li>・「ながさき歴史の学校」において、延べ1473人の講座参加があったが、受講者の年代に偏りがある。</li> </ul>	<p>若い世代を含め、幅広い世代に興味を持ってもらえるような内容の充実や周知が十分にはできておらず、講座やサポーター活動の参加者は高齢である場合が多いため。</p>

## 今後の取組方針

- ①歴史文化施設での取組み
- ・効果的な情報発信の手法や常設展示の見直し等について検討を行い、周知を図りながら、入館者の増加を目指す。
- ②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み
- ・「ながさき歴史の学校」の講座内容を充実させ、長崎の歴史文化を学ぶ人の裾野を広げる。幅広い年齢層を取り込むために、他団体と協力し、周知を図る。
  - ・「ながさき歴史の学校」の修了者を文化財サポーターとして採用するなど、高齢化する文化財サポーターの後継者育成に取り組む。
  - ・長崎学研究所での研究成果を、公開学習会や研究発表会、研究紀要の刊行により市民に還元する。
  - ・観光と連携したホームページの活用など、市民等に向けた情報発信を進める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) ながさき歴史の学校費</p> <p>【文化財課】</p> <p>(事業目的) 長崎の歴史や文化について、もっと知りたい、教えたい、いろいろな人と交流したいという市民や市民団体等がつながる仕組み(ネットワーク)を構築し、だれもが気軽に集い、お互いに教え合える学びの場を市民との協働によって創出する。</p> <p>(事業概要) 長崎学、文化財、世界遺産等に関する講座の提供により、市民に長崎の歴史・文化財に親しんでもらう。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	講座の参加人数	
		目標値	190 人	466 人
		実績値	210 人	429 人
		達成率	110.5 %	92.1 %
		決算(見込)額	241,370 円	534,206 円
		成果指標及び目標値の説明	より多くの市民に長崎の歴史に親しんでもらうため、「ながさき歴史の学校」の講座の参加人数を成果指標とし、講座の定員を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・「ながさき歴史の学校」(4コース及び発掘調査現地説明会、定員190人、参加人数210人)</p> <p>(成果・課題等) 若者世代への文化財普及啓発などを課題とした「ながさき歴史の学校」を開設し、長崎学、世界遺産、文化財等をテーマにしたコース・講座を開催した。 平成29年度は周知期間及び応募の時期を工夫することにより、定員を満たすことができた。</p>	<p>(取組実績) ・「ながさき歴史の学校」(7コース及び特別講座等、定員466人、参加人数429人)</p> <p>(成果・課題等) 若者世代への文化財普及啓発などを課題とした「ながさき歴史の学校」を開設し、長崎学、文化財、近代化遺産等をテーマにしたコース・講座を開催した。 平成30年度は特別講座等の実施により大幅に定員が増えたが、概ね達成することができた。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度		
2	<p>(事業名) 長崎学調査研究費</p> <p>【長崎学研究所】</p> <p>(事業目的) 長崎学の振興と継承、そのための人材育成</p> <p>(事業概要) 調査研究事業・普及啓発事業・後継者育成事業の3本を柱に、大学や長崎市内の歴史研究団体とのネットワーク構築や公開学習会の実施、小学生を対象にした長崎学児童研究コンクールを実施する。また、長崎学の研究成果を紀要『長崎学』にまとめ刊行することで内外に広く発信する。</p>	実施年度	継続			
		成果指標	長崎学に関する研究業績数			
		目標値	4 本	5 本		
		実績値	7 本	7 本		
		達成率	175.0 %	140.0 %		
		決算(見込)額	4,213,255 円	4,308,007 円		
		成果指標及び目標値の説明	長崎学に関する研究内容を、論文等により公表することにより、長崎学の振興や人材育成につながると考えられることから、長崎学に関する研究業績数を成果指標とし、紀要『長崎学』の論文等掲載見込み数を目標値とした。			
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要『長崎学』論文掲載数 論文4本、史料紹介3本</li> <li>・公開学習会の開催(6回)</li> <li>・長崎学児童研究コンクールの開催</li> </ul>	(取組実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要『長崎学』の論文等掲載数 論文4本、史料紹介1本、講演録2本</li> <li>・公開学習会の開催(5回)</li> <li>・長崎学児童研究コンクールの開催</li> </ul>
			(成果・課題等)	<p>長崎学の振興を目的とし、紀要『長崎学』第2号を発刊した。この紀要には、長崎学関連の論文、史料紹介など7本を掲載し、成果指標の研究業績数を達成することができた。</p> <p>このほか、前年度から行っている公開学習会や外部での講演会も積極的に実施した。</p>	(成果・課題等)	<p>長崎学の振興を目的として昨年度、紀要『長崎学』を創刊した。この紀要に長崎学関連の論文、史料紹介、講演録7本を掲載し、成果指標の研究業績数を達成できた。</p> <p>このほか、公開学習会や外部での講演、長崎学関係の史料調査、長崎学児童研究コンクールなどにも力を入れ長崎学研究所の使命である、普及啓発活動、調査研究活動にも力を入れることができた。</p>

## 令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	A1-3 史跡「出島和蘭商館跡」の復元整備を推進し、まちづくりに活かします		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	出島が	19世紀初頭の出島の姿への復元が進み、本質的な価値を高め、まちづくり等に積極的な活用が図られている。	
個別施策主管課名	出島復元整備室	所属長名	柴田 恭郎

### 平成30年度 of 取組概要

#### ①旧出島橋の調査

・出島表門橋架橋工事現場から検出された旧出島橋の石材について、その価値を検証するとともに、今後の保存活用についての検討を行った。

#### ②出島の運営

・各種イベントの実施及び誘致を行った。(出島オラニエフェスティバル、教育委員会主催のALTを活用した小中学生を対象とした英語体験等)

・官民連携でイルミネーションの輪を拡げる、「長崎ベイサイド・テラス」に参画し、民間施設と連携して夜景観光の推進を図った。

・明治150年記念企画展「明治維新と出島」を開催した。

・夏休みの7月～8月の毎週土曜日に演劇の鑑賞型無料イベント「感激の出島」を開催した。

・5月末から第2、第4の土曜日に「長崎検番in出島」を開催した。

・2月から出島歴史スタッフによる「出島ナイトツアー」を実施した。

・来場者アンケート、スタンプラリーを実施した。

※オラニエ・フェスティバル…鎖国時代から日蘭交流の舞台であった出島において、日本とオランダの祝日が続く4月27日(オランダ国王の誕生日)から4月29日(昭和の日)の3日間、日蘭交流をテーマに開催するお祭り。「オラニエ」とはオランダ語で「オレンジ」という意味。

### 成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	
出島への入場者数	434,910人 (26年度)	↑	目標値	500,000	550,000	610,000	580,000	600,000
			実績値	416,999	520,701	532,013		
			達成率	83.4%	94.7%	87.2%		
出島への入場者数 (外国人)	31,992人 (26年度)	↑	目標値	39,000	43,000	48,000	53,000	60,000
			実績値	43,359	49,343	38,714		
			達成率	111.2%	114.8%	80.7%		
出島への入場者数 (長崎市民)	7,469人 (26年度)	↑	目標値	8,600	9,000	9,400	9,800	10,000
			実績値	16,692	25,860	14,181		
			達成率	194.1%	287.3%	150.9%		

※「出島への入場者数」の目標値について、平成31年度は、平成29年11月の出島表門橋完成による集客効果が一定なくなるにより減少している。

## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①旧出島橋の調査 ・旧出島橋の本質的な価値を確認でき、また、再度組立てて展示を行うなどのいくつかの保存活用方法の検討をおこなった。	出島復元建造物や出島表門橋とともに、旧出島橋を入場者への魅力のひとつとできるような活用の検討を行うことができた。
②出島の運営 出島表門橋の完成や時機をとらえたイベント等の実施により、入場者数が前年度と比較して11,312人(2.2%)増加した。	入場者数の増加に伴い、観光客によるSNSを活用した口コミの情報発信が行われた。 また、出島に関連するイベントや企画展の開催により、出島とゆかりの深い歴史の発信ができた。

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①旧出島橋の調査 ・今後、どのような形で保存活用していくのかの具体的な決定に至っていない。	現在はまだ調査、検討の途中段階であるため。
②出島の運営 ・入場者数は前年度より2.2%増加したものの、H30年度の目標値610,000人は達成できなかった。(達成率87.2%)	平成29年11月の出島表門橋完成による集客効果が見込みよりも鈍化したため。

## 今後の取組方針

①旧出島橋の調査 ・出島史跡整備審議会の中の旧出島橋保存活用小委員会等において、さらに調査、検討を進め、出島の大きな魅力のひとつとなるような保存活用を目指す。
②出島の運営 ・国内においてはホームページやフェイスブックなどの様々な情報発信やエージェン等へのPRにより集客増を図る。また、今後は国内市場の縮小傾向が予想されるため、多言語による国外への出島の魅力情報発信や文化観光部全体での外国人をターゲットとした情報発信などにより、入場者の増加を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 出島運営費</p> <p>【出島復元整備室】</p> <p>(事業目的) 国指定史跡「出島和蘭商館跡」の適正な保存管理を行うとともに、来場者への安全を配慮しながら、歴史と文化に親しむことができるよう、入場者へのサービス向上を図る。</p> <p>(事業概要) 毎年出島の歴史に関する企画展を開催している。また、来場者サービスとして出島ガイドを配置し、出島内の観光案内や体験展示の支援を行っている。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	入場者数	
		目標値	550,000 人	610,000 人
		実績値	520,701 人	532,013 人
		達成率	94.7 %	87.2 %
		決算(見込)額	126,903,545 円	132,461,303 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>出島の運営に関して最も重要となる入場者数を成果指標とした。目標値は第四次総合計画における入場者数の目標値を設定した。令和2年度の目標入場者数を600,000人に設定しており、平成29年度は550,000人としている。</p>	<p>出島の運営に関して最も重要となる入場者数を成果指標とした。目標値は第四次総合計画における入場者数の目標値を設定した。令和2年度の目標入場者数を600,000人に設定しており、平成30年度は610,000人としている。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 市民等のイベント・出店を積極的に誘致し、来場者サービスの向上を行った。 昨年度に引き続きミニ出島の老朽化が著しい模型2棟の改修を長崎県立工業高等学校と協働で行った。 出島表門橋完成後から夜9時までの夜間営業を開始した。</p> <p>(成果・課題等) 前年度と比較し、入場者数が24.9%、出島入場料が27.0%増加した。 【参考】 ・外国人入場者数…49,343人</p> <p>ミニ出島は、全体的に老朽化しており、今後も継続して工業高校と協働し、改修を行っていく必要がある。</p>	<p>(取組実績) 市民等のイベント・出店を積極的に誘致し、来場者サービスの向上を行った。</p> <p>(成果・課題等) 前年度と比較し、入場者数が2.2%、出島入場料が4.5%増加した。 【参考】 ・外国人入場者数…38,714人</p>

## 令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	A1-4 世界遺産の登録を実現し、その価値を世界に発信します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	構成資産が	世界遺産として適切な保存・活用の仕組みが構築され、世界中の人々に知られている。	
個別施策主管課名	世界遺産推進室	所属長名	中道 大介

### 平成30年度 of 取組概要

- ①「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」(以下「産業革命遺産」という。)の取組み
- ・平成25年から平成29年に実施した「史跡 高島炭鉱跡」に関する各種調査を「総括調査報告書」として取りまとめ、文化庁、県内市町図書館、研究機関などに配布した。
  - ・端島炭坑は、緊急的な整備として平成29年度に引き続き、土砂が吸い出され空洞化している端島小中学校の下部の埋戻しを行った。
  - ・高島炭鉱北溪井坑跡は、緩衝地帯内にある旧高島町営プール解体後の跡地を整備した。
  - ・「2つの世界遺産ガイドマップ」の広報ながさきへの折り込みや他の構成資産の自治体とともに展示会へ出展した。
  - ・出前講座及び市民等との協働による構成資産の環境整備活動を実施した。
- ②「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(以下「潜伏キリシタン関連遺産」という。)の取組み
- ・バーレーンで開催された第42回世界遺産委員会に出席するとともに、世界遺産登録記念事業として登録記念セレモニー及び講演会を開催した。
  - ・構成資産及び関連資産を適切に保存するための記録調査を実施した。
  - ・大平作業場跡や石積み建物において、所有者が実施する重要文化的景観の重要な構成要素の整備や修理に対してアドバイスや補助を行った。
  - ・世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインを設置するとともに、外海歴史民俗資料館の2階に構成資産である外海の出津・大野集落の価値や範囲などの展示を追加した。
  - ・「2つの世界遺産ガイドマップ」の広報ながさきへの折り込み、登録記念グッズ・パンフレットの作成、出前講座及び市民等との協働による構成資産の環境整備活動を実施した。

### 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
グラバー園の入園者数	1,038,202人 (26年度)	↑ 目標値	1,090,000	1,110,000	1,130,000	1,140,000	1,170,000
		実績値	987,822	996,075	944,780		
		達成率	90.6%	89.7%	83.6%		
端島(軍艦島)の上陸者数	191,616人 (26年度)	↑ 目標値	215,000	226,000	238,000	249,000	261,000
		実績値	265,555	291,665	181,267		
		達成率	123.5%	129.1%	76.2%		
外海歴史民俗資料館の入館者数	9,912人 (26年度)	↑ 目標値	10,300	10,500	11,500	12,100	12,700
		実績値	11,376	13,595	21,749		
		達成率	110.4%	129.5%	189.1%		
大浦天主堂の拝観者数	555,395人 (26年度)	↑ 目標値	585,600	594,400	603,200	612,000	625,300
		実績値	446,957	420,216	469,901		
		達成率	76.3%	70.7%	77.9%		

※大浦天主堂の拝観料の推移(大人)H27.7.1～、300円→600円、H30.4.1～、600円→1,000円(キリシタン博物館開館)

## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①「産業革命遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「史跡 高島炭鉱跡」に関する各種調査を「総括調査報告書」として取りまとめ、文化庁、県内市町図書館、研究機関などに配布したことにより、各種基礎資料を整理することができ、また、関係者等に調査結果を周知することができた。</li> <li>・端島炭坑は、土砂が吸い出され空洞化している端島小中学校の下部の埋戻しが完了したことにより、建物の倒壊を防止することができた。</li> <li>・高島炭鉱北溪井坑跡は、旧高島町営プール解体後の跡地を公園として整備するとともに、周辺にバスの回転や駐車場などを整備した。</li> <li>・「2つの世界遺産ガイドマップ」の広報ながさきへの折り込み及び展示会へ出展したことにより、「2つの世界遺産があるまち」の実現の周知と2つの世界遺産の周遊を促すことができた。</li> <li>・出前講座を3回実施するとともに、市民と協働による環境整備活動などを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の保存整備事業を進めるうえでの基礎資料の整理及び周知が行えたことにより、より適切な史跡の保存管理が可能となった。</li> <li>・端島炭坑の小中学校の下部の埋戻しにより、建物の倒壊を防止し、資産を後世に残すための適切な保全が図られた。</li> <li>・旧高島町営プール解体後の跡地を整備したことにより、周辺環境を改善するとともに利便性の向上に寄与した。</li> <li>・ガイドマップの折り込み及び県外の展示会へ出展したことにより、周遊を促すとともに認知度向上が図られた。</li> <li>・出前講座及び市民等との協働による活動を通して、世界遺産価値の理解促進と周知啓発及び周辺環境整備が図られた。</li> </ul>
<p>②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年7月に世界文化遺産に登録された。また、登録記念事業として登録記念セレモニーや講演会を実施したことにより、世界遺産登録の周知が図られた。</li> <li>・資産のモニタリングのための基礎資料となる平面図を作成したことにより、構成資産及び関連資産の適切な保存管理のための調査報告書を取りまとめた。</li> <li>・大平作業場跡や石積み建物の整備・修理について所有者へアドバイスや補助を行ったことにより、資産の保全が図られた。</li> <li>・世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインを設置し、また、外海歴史民俗資料館の潜伏キリシタン情報コーナーに構成資産の展示を追加したことにより、来訪者の受入態勢の充実を図ることができた。</li> <li>・「2つの世界遺産ガイドマップ」の折り込み、登録記念グッズ・パンフレットの作成や出前講座を10回実施するとともに、市民と協働による環境整備活動などを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産の登録により、各構成資産とその歴史の顕著で普遍的な価値を世界中に発信することができた。また、各種登録記念事業の実施により、更なる発信と周知につなげることができた。加えて、地域経済の活性化や交流人口の増加に寄与することができた。</li> <li>・今後の保存整備事業を進めるうえでの基礎資料を作成したことにより、資産の適切な保存管理が可能となった。</li> <li>・資産を所有する個人や民間団体に保全のアドバイスや補助をすることで、資産を後世に残すための適切な保全が図られた。</li> <li>・世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインの設置、外海歴史民俗資料館の展示を追加したことにより、来訪者の利便性向上及び理解促進に寄与した。</li> <li>・広報ながさきへの折り込み、登録記念グッズ・パンフレットの作成や出前講座の実施、市民等との協働による活動を通して、市民の機運醸成や構成資産の認知度向上が図られた。</li> </ul>



## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①「産業革命遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端島炭坑は、劣化が著しい建物や護岸について具体的な保存工法が決まっていない。</li> <li>・市民アンケートによると一番認知度の高い構成資産と一番認知度が低い構成資産では66.7ポイントの割合の差があり、資産によって認知度にばらつきがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉山から40年以上が経過し、遺構の劣化が著しく進行しているが、世界でも類を見ない劣化状況のコンクリート構造物であるため、保存方法が確立していない。また、特に護岸については台風等による自然災害への対応も含めて考えなければならないため、工法や対策の確立が困難になっている。</li> <li>・公開されている構成資産と民間企業の敷地内に所在する稼働資産や非公開の構成資産との違いが、認知度に差がでている要因の一つと考えられる。</li> </ul>
<p>②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成資産や関連資産へ訪問する際、路面が急な箇所があり、歩行者ルート of 安全確保が必要である。</li> <li>・構成資産内や関連資産には個人や民間団体が所有している遺構が多く所在しており、適切な保存が必要である。</li> <li>・市民アンケートによると一番認知度の高い構成資産と一番認知度が低い構成資産では55.2ポイントの割合の差があり、資産によって認知度にばらつきがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外海の出津集落及び外海の大野集落においては、山の斜面に関連資産が点在しているため。</li> <li>・保存管理するための補助金を活用しても自己負担があることから、申請をしない要因となっている。</li> <li>・国宝の建造物を含む構成資産と重要文化財の建造物を含む集落としての構成資産との違いや構成資産のある地域・場所の違いが、認知度に差がでている要因の一つと考えられる。</li> </ul>

## 今後の取組方針

<p>①「産業革命遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産として適切に構成資産を保全し価値を後世に伝えるため、保全のための調査や整備を実施する。</li> <li>・劣化が著しいコンクリート構造物の具体的な保存工法について、大学等の研究機関と連携を図りながら検証を行う。</li> <li>・関係8県11市と連携して、理解促進及び認知度向上のための情報発信を行う。また、市民ボランティアガイドの研修を実施し、ガイドの資質向上とガイド活動の充実を図ると共に、来訪者の受入れ態勢の充実を図る。</li> </ul> <p>②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の増加や急な路面などに対応するため、説明版の設置や歩行者ルートの整備など更なる受け入れ態勢の充実を図る。</li> <li>・資産の適切な保存管理を図るため、構成資産及び関連資産の保存にかかるモニタリングや資産を保全を目的とした補助制度の周知を図る。</li> <li>・更なる認知度の向上を目指し、パンフレット・回遊マップの活用や出前講座を実施するとともに関係自治体と連携した周知啓発等を行う。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 「明治日本の産業革命遺産」推進費</p> <p>【世界遺産推進室】</p> <p>(事業目的) 世界遺産は、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の財産であるため、構成資産を適切に保存し、世界遺産価値の理解促進を図る。</p> <p>(事業概要) 構成資産である高島炭鉱(高島炭坑・端島炭坑)の保存管理を万全なものとするための計画策定や、関係自治体と連携して周知啓発等を行い、世界遺産価値の理解促進を進める。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	グラバー園の入園者数	
		目標値	1,110,000 人	1,130,000 人
		実績値	996,075 人	944,780 人
		達成率	89.7 %	83.6 %
		決算(見込)額	39,233,874 円	15,804,062 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>・グラバー園内に市内構成資産に関するインフォメーション機能を設置しており、グラバー園の入園者数の増が、構成資産の認知度向上に寄与すると考えられることから、グラバー園の入場者数を成果指標とした。</p> <p>・各年度末の実績により把握する。</p> <p>・世界遺産登録の効果等の要素を踏まえて設定された観光客数の伸び率(平成32年までの観光客数の目標から算出)をもとに目標値を設定する。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産委員会の勧告に対応するため、高島炭鉱(高島炭坑、端島炭坑)及び旧グラバー住宅の「修復・公開活用計画」を平成29年12月に策定し、国を通じて勧告に対する進捗状況を報告した。</li> <li>土砂が吸い出され空洞化している端島小中学校の下部の一部埋戻しを行うとともに、遺構の補強整備を目的とした構造調査を行った。</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国を通じて進捗状況を報告したことにより、世界遺産委員会の勧告に対応することができた。</li> <li>建物の倒壊防止に向け進捗があった。また、資産の整備の基礎資料を作成することができた。</li> </ul>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「史跡 高島炭鉱跡」に関する各種調査を「総括調査報告書」として取りまとめ、文化庁、県内市町図書館、研究機関などに配布した。</li> <li>「2つの世界遺産ガイドマップ」の広報ながさきへの折り込みや他の構成資産の自治体とともに展示会へ出展した。</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「総括調査報告書」として取りまとめ、配布したことにより、調査結果を公開し、補助金を活用した事業を周知することができた。</li> <li>「2つの世界遺産があるまち」の実現の周知と2つの世界遺産の周遊を促すことができた。</li> </ul>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
2	<p>(事業名) 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録推進費</p> <p>【世界遺産推進室】</p> <p>(事業目的) 歴史的・文化的遺産を活用したまちづくりに資するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を図る。</p> <p>(事業概要) 登録を見据え、構成資産及び関連資産を適切に保存するための調査や整備を行うとともに、来訪者受入態勢の充実、周知啓発等の実施により機運の醸成を図る。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	外海歴史民俗資料館の入館者数	
		目標値	10,500 人	11,500 人
		実績値	13,595 人	21,749 人
		達成率	129.5 %	189.1 %
		決算(見込)額	18,535,391 円	32,325,088 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>・外海歴史民俗資料館に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の展示を行っており、外海歴史民俗資料館の入館者数の増が構成資産の認知度向上に寄与すると考えられることから、外海歴史民俗資料館の入館者数を成果指標とした。</p> <p>・各年度末の実績により把握する。</p> <p>・平成27年度から平成29年度までは毎年度2%増を、世界遺産登録が見込まれる平成30年度は10%増、平成31年度以降は毎年度5%増を目標とする。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イコモス現地調査への対応とともに、「外海の大野集落」の保護を図るため、重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」の追加選定への対応を行なった。</li> <li>・世界遺産の全体価値を示す展示やDVDの放映を外海歴史民俗資料館内にて行った。また、外海地区において、歩行者ルートの手摺りや文化的景観の説明板を設置した。</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イコモス調査に適切に対応したこと及び外海の大野集落において、平成30年2月に重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」の追加選定が行われ、世界遺産登録に必要な法的保護措置が完了したことにより、世界遺産登録について前進した。</li> <li>・来訪者への受入態勢の充実や理解促進を図ることができた。</li> </ul>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第42回世界遺産委員会に出席するとともに、世界遺産登録記念事業として登録記念セレモニー及び講演会を開催した。</li> <li>・世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインを設置するとともに、外海歴史民俗資料館の展示を追加した。</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年7月に世界文化遺産に登録された。また、登録記念事業を実施したことにより、世界遺産登録の周知が図られた。</li> <li>・世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインを設置や外海歴史民俗資料館の展示を追加したことにより、理解促進と来訪者の受入態勢の充実を図ることができた。</li> </ul>		



## 基本施策の振返りシート

基本施策	A1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます
------	------------------------

主管課：文化財課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
歴史文化遺産が	市民や事業者の理解のもとに、貴重な財産として、適切に保存・活用され、伝えられている。

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
A1-1	●文化遺産の適正な評価と維持管理	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化財の保存・継承に関する計画策定に向けた委員会等の開催</li> <li>○市が所有する文化財の整備、及び民間が所有する文化財の保存整備に対する補助</li> <li>○市指定史跡心田庵の一般公開の実施と、一般公開期間以外の市民への貸出</li> <li>○伝統芸能の保存継承のための郷土芸能大会の実施</li> </ul>
A1-2	●歴史や文化遺産の顕在化と価値の啓発	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ながさき歴史の学校」をはじめとする歴史文化講座の実施</li> <li>○文化財サポーター活動として、調査や清掃などを実施</li> </ul>
A1-2	●文化遺産の国際的価値の国内外への発信	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史文化施設における企画展、特別展、学習会などの実施</li> <li>○長崎学研究所における、ネットワークの構築、研究、研究成果の発信</li> <li>○ホームページやリーフレット、解説板等の多言語化</li> </ul>
A1-3	●出島の復元整備の推進とその価値の発信及び認知	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出島第Ⅲ期復元建造物6棟の完成</li> <li>○「国指定史跡『出島和蘭商館跡』保存活用計画」の策定</li> <li>○出島表門橋の架橋</li> <li>○国指定史跡の追加指定</li> <li>○旧出島橋の調査</li> </ul>
A1-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産早期登録</li> <li>●構成資産の適切な保護措置と価値の理解促進</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「潜伏キリシタン関連遺産」の平成30年度における世界遺産登録のため、推薦書の作成、イコモス現地調査への対応その他必要な調査・整備を実施</li> <li>○構成資産及び関連資産を適切に保存するための調査や補助の実施</li> <li>○世界遺産登録記念銘板・説明版、構成資産への誘導サインや施設の展示整備を実施</li> </ul>



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
市が所有する文化財の整備を実施するとともに、民間が所有する文化財の保存整備に対し助成等を行った。	指定等文化財を今後活用し、継承していくための適切な整備が図られた。
文化財サポーターの活動や、歴史文化講座を実施したことにより、多くの市民が長崎の歴史・文化について学んだ。	文化財の保護に関する市民意識の高揚、及び長崎の歴史・文化に対する理解度向上が図られた。
長崎学研究所における、ネットワークの構築、研究、研究成果の発信を行った。	県内外の長崎学に関する学会及び研究団体のネットワークを確立し、長崎学の裾野が広がりつつある。
復元建造物が全部で16棟となり、19世紀初頭の出島のまち並みがよみがえった。また、出島表門橋の架橋により、当時と同じように橋を渡って出島に入ることができるようになった。	出島の魅力向上により入場者が増加し、平成29年度には初めて50万人を超え、出島の歴史及び意義を多くの人に知ってもらうことができた。
「明治日本の産業革命遺産」について、各種調査を取りまとめ、報告書を作成した。また、資産の保全に必要な緊急的な整備を行った。	保存整備を進めるうえでの基礎資料の整理ができ、以降の適切な管理に活用されている。また、緊急の整備により資産の適切な保全が図られている。
平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された。	構成資産が貴重な財産として世界に認められ、国内外に発信されている。

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
市が所有する文化財建造物において、早期に保存修理を要する物件が複数ある。	文化財建造物の保存修理には、相応の財源及び期間が必要であるため。
文化財サポーターを維持するための人材の不足が見込まれる。	サポーター活動の参加者は高齢である場合が多いため。
長崎学に関する学会や研究団体の縮小などが考えられる。	後継人材の確保が難しくなり(働き方改革などによる定年の延長など)、研究団体の高齢化がさらに進む。
出島の入場者は毎年度増加傾向にあるものの、目標値を達成できていない。	平成29年11月の出島表門橋完成による集客効果が見込みよりも鈍化したため。
「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」において、端島炭坑は、劣化が著しい建物や護岸について具体的な保存工法が決まっていない。	閉山から40年以上が経過し、遺構の劣化が著しく進行しているが、世界でも類を見ない劣化状況のコンクリート構造物であるため、保存方法が確立していない。また、特に護岸については台風等による自然災害への対応も含めて考えなければならないため、工法や対策の確立が困難になっている。
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」において、構成資産内や関連資産には個人や民間団体が所有している遺構が多く所在しており、適切な保存が必要である。	保存管理するための補助金を活用しても自己負担があることが、申請をしない要因となっており、所有者の理解と協力が必要である。

### 市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.86	5位 / 43項目中
	維持	期待度	1.29	12位 / 43項目中

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

### 【前期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
文化財の指定・登録件数[累計]	266件 (21年度)	↑ 目標値	270	272	274	276	278
		実績値	273	276	281	290	289
		達成率	101.1%	101.5%	102.6%	105.1%	104.0%
主要な歴史文化施設を訪れたことがある市民の割合	73.7% (21年度)	↑ 目標値	74.7	75.2	75.7	76.2	76.7
		実績値	71.5	81.9	81.7	80.2	66.7
		達成率	95.7%	108.9%	107.9%	105.2%	87.0%

※平成26年度までは「出島」の割合を含めて実績値を計上していたが、平成27年度より出島を除き、外海歴史民俗資料館、軍艦島資料館、高島石炭資料館を加えて実績値を計上している。

### 【後期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	H31	H32
文化財の指定・登録等件数[累計]	290件 (26年度)	↑ 目標値	294件	296件	298件	300件	302件
		実績値	286件	288件	289件		
		達成率	97.3%	97.3%	97.0%		
主要な歴史文化施設※1を訪れたことがある市民の割合	59.1% (26年度)	↑ 目標値	60.1%	60.6%	61.1%	61.6%	62.1%
		実績値	67.8%	63.9%	64.9%		
		達成率	112.8%	105.4%	106.2%		

※1 計7施設：歴史民俗資料館、外海歴史民俗資料館、シーボルト記念館、サント・ドミンゴ教会跡資料館、歴史文化博物館(企画展を除く)、高島石炭資料館、軍艦島資料館(野母崎地区)

### 【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
文化財の指定・登録件数[累計]	本指標の増加が、施策の目的である歴史文化遺産の保存、活用とそれを伝えることにつながることから、成果指標としては適している。
主要な歴史文化施設を訪れたことがある市民の割合	本指標の増加により、長崎の歴史文化に対する市民の関心と理解が深まるものと考えられることから、成果指標としては適している。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

#### 成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

# 長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案等	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	その他
基本施策A1 歴史・文化遺産 を守り、活かし、 伝えます	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本施策A1の成果指標「主要な歴史文化施設を訪れたことがある市民の割合」については、施設ごとの入場者数や企画展の内容を示さなければ、成果の判断は難しい。また、企画展については、施策の目的と関連のない内容も含まれていると思われるため、入場者の分析に努めてほしい。</li> </ul>	文化財課	●				<p>施策の目的と関連のない企画展を実施する施設もあるため、長崎歴史文化博物館に関しては、企画展の入場者を除いて評価を行うこととした。</p>	1
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果指標の目標値の設定について、使命感から高い目標値を設定することも理解するが、状況の変化に応じて修正等を行わなければ、やりがいのある目標設定にならず、結果的に目標が絵に描いた餅となり、職員のやる気もなくなるのではないかと。</li> </ul>	文化財課				●	<p>現時点においては、目標値の修正が必要であるとは考えられていないが、今後、状況の変化が生じた場合は修正等も検討する。</p>	2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 軍艦島クルーズの利用者が増加していることから、利用者アンケートの結果を分析・活用するなど、成果や効果を他の施設等へ広げる視点を持って取り組んでほしい。</li> </ul>	世界遺産 推進室	●				<p>「明治日本の産業革命遺産」の各構成資産における来訪者数の現況・推移を把握し、その特質を分析するためアンケートなどの来訪者調査を実施している。 その調査結果については、分析したのち、関係課への周知や、ホームページでの公表など成果や効果を他の施設等へ広げることが出来るよう取り組んでいる。</p>	3
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市は、多種多様な文化財を有しており、市の取組みは評価できる。今後は、長崎学研究所が市民目線で啓発し、市民を巻き込んでほしい。</li> </ul>	長崎学研 研究所			●		<p>長崎学研究所では、長崎学にかかる調査研究、普及啓発、後継者育成に努め、その成果を市内外に発信することで、長崎学の特殊性・重要性を高め、研究の裾野を広げることとを目的としている。なかでも、普及啓発事業については、長崎学ネットワーグ会議において公開学習会を開催し、ネットワーグ会議加盟団体及び外部の団体から、定期的に講師を招聘し、広く市民に長崎学に関する知識・理解を深める機会を提供している。 加えて、教育委員会所管の「長崎の宝」発見・発信学習推進事業との連携を中心に、若い層への普及啓発も行った。今後も事業の拡充を行い、長崎学の調査研究、普及啓発活動に努めていく。</p>	4



## 長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表（平成29年度開催分）【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案等	回答課	処理状況					令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号	
				完結	処理中			その他			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中			
		唐人屋敷跡	文化財課						●	歴史文化基本構想(H27.3策定)において、歴史文化保存活用区域の一つとして「出島・館内・新地・山手区域」を定めている。 今後、基本構想に基づき、歴史文化遺産の保存とその周辺環境の向上につながるよう必要な整備を計画的に進めていきたい。	5

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他	具体的内容		
				対応済	対応中	対応予定	検討中		
基本施策A1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます	文化財課	<p>○ 旧グラバー住宅については、今後整備に一定の経費がかかるところから、入場料の変更を検討する時期にきているのではないか。</p>	観光政策課		●			1	
			観光政策課					2	
			中央環境センター		●			3	
		<p>グラバー園</p>							
		<p>唐人屋敷跡</p>							

グラバー園では世界文化遺産の構成資産である旧グラバー住宅の保存修理工事をはじめ、重要文化財である旧リッカー住宅及び旧オルト住宅も保存修理工事も予定されており、今後、一定の整備費が必要になると見込まれる。入場料は昭和57年に600円(一般・個人)へ改定して以降、平成26年に消費税率が5%から8%に改定された時に610円(一般・個人)へ改定しており、年また、令和元年10月1日からの8%から10%への改定時には620円(一般・個人)へ改定予定である。

今後、施設のバリアフリー化や老朽化している設備等の抜本的な改修の必要性も想定されていることを踏まえ、必要に応じて使用料の在り方を検討したいと考えている。

パイプ椅子の設置等については、景観に配慮するよう指導を行った。

園内の修繕については、指定管理者で1件130万円以下、年間2,160万円を上限に行っており、1件当たりの金額及び年間上限額を超えるものについては市が行うこととなり、市・指定管理者ともに限られた予算の中で最大の効果が得られるよう、内容に応じ優先順位をつけ実施している。

指摘があつているごみが出されている場所は、ごみステーションとして指定している場所ではあるが、旧唐人屋敷周辺は観光地であるため、周辺住民はごみステーションの場所を把握していること、また、一帯が道路改良工事中であり、周辺のごみステーションを仮設として使用していることから、あえてごみステーションの看板は設置していない。

今回の指摘を受け平成30年9月5日、10日の両日に広馬場自治会と協議を行い、付近には新たにごみステーションを移設する場所がなく、市民生活の観点からごみを出す場所を無くすこともできないことから、早期収集(7時15分頃)1回目の収集、その後に出されたごみを9時頃までに2回目の収集)で対応することとし、平成30年9月14日から開始した。なお、今後、今回指摘の場所も含め周辺のごみステーションの移設や新設の際には、改めて、市の関係部署や自治会と協議しながら対応していく。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況					令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号	
				完結	処理中	その他	対応済	対応不可			対応中
		文化財保護法の改正により、文化財の保護だけでなく文化財を活かすという方向が出てきたことから、関係課と連携し、今後の政策への反映について検討してほしい。	文化財課							文化財保護法が改正されたことにより、市町村は、県が策定する大綱に基づき、文化財の保存と活用の方針を含む文化財の総合的な計画を作ることができることとなっている。今後、国が示した指針や長崎県が作成する大綱を踏まえ、関連する他の計画とも調整を図りながら、市の対応を検討したい。	4
		文化財活用	文化財課							心田庵は、一般公開期間以外は施設の貸し出しを行っている。例年100件程度の利用があり、年間を通して活用できる施設となっている。また、一般公開中は入場者が多いため、庭園の重要な構成要素である苔が踏まれ、減少してきており、庭園の保全のためにも一定の養生期間が必要であると考える。	5

